

☆建築科 小笠原流礼法 小笠原清基先生による講演会☆



「日本の伝統建築及び和室と小笠原流礼法の立ち居ふるまい」について、小笠原流宗家嫡男小笠原清基先生と助手の先生から就職活動を控えた3年生が学びました。

小笠原流礼法は鎌倉時代から続く礼法・弓術・弓馬術の流派であり、先生方は会社に勤めながら、全国の神社等で伝統的な儀式を行っていらっしゃいます。

将来、日本の伝統建築をつくっていくかもしれない生徒たちにとって、和室の上座と下座が床の間と関係があること、床の間には未完の美という考え方があること、そのような場でのふるまいを身につけておくことの大切さを、先生方の美しい姿勢と立ち居振る舞いを拝見することなどから多くを学ぶことができました。お忙しい中、ご講演ありがとうございました。

↑小笠原清基先生が表紙の素敵なパンフレットを頂戴しました。



小笠原流武家の礼法であり、昔の武士は日常生活で鍛錬することで、心と体をつくっていたというお話の後、先生の説明に合わせてと鍛錬する動きを行いました。



立位での、お辞儀、イスへの着席。先生方の姿勢とお辞儀の美しさを見て、だんだんと生徒も背筋が伸びていきました。



跪座（きざ）の姿勢から、流鏝馬を行うための騎射体操も行いました。先生方は動きを静止され、安定した動きですが、生徒たちは少し経つとグラグラ動き、「こんなにつらい姿勢で馬にのって、矢を射るのか」と驚いていました。先生方の美しい姿勢は、日々の鍛錬による体の強さがあることを実感しました。